

キラリ
光るまち

天空の郷 さんさん 発進

哲学のようなテーマ

特集テーマの「地域」を「久万高原」に入れ替えてみました。「何を求めて人は久万高原に来るのか?」という問いかけは、「町おこし」の観点から考えると、シンプルであると同時に難解でもあります。この問いに

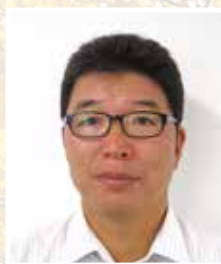
対する明確な答えを持ち合わせているのなら、交流人口の増加は容易にできるであろうし、逆に答えが無いのなら、「交流人口の増加」という重要課題を全く考えていないと言われても仕方ありません。

現在私は、この問いに対する明確な答えを持ち合わせていません。もちろん全くないというわけではありませんが、その問いに答えようとすると迷路に入り込んでしまいます。

そのような私ではございますが、「道の駅 天空の郷 さんさん」を皆様にご紹介させていただくことで、この迷路から抜け出すきっかけになればと考えています。

町の概要

その前に、町の概要を簡単に説明します。久万高原町は約10年前の、平成16年8月に旧久万町、旧面河村、旧美川村、旧柳谷村の1町3村が合併して誕生しました。合併後の面積は約58.4km²と、愛媛県の市町の中で最も広く、高原野菜や木材の産出など農林業が盛んな高原の町です。また、石鎚山や面河溪谷、四国カルストなどの全国に誇れる景勝地をはじめ、大宝寺、岩屋寺



久万高原町企画観光課
道の駅推進室長

和田 利章

といった四国遍路の札所などもあります。

また、平成24年3月には三坂道路が開通し、松山インターチェンジから町の中心部まで車で約30分とアクセスは格段に向上し、道路や通信をはじめとしたインフラも整いつつあります。

しかしながら、新町は約12,000人のまちとして船出をしましたが、本年3月末には9,500人を割り込み、加えて高齢化率は44.6%と年を追うことに高くなり、過疎高齢化が進展しています。

「道の駅 天空の郷 さんさん」の概要

このような状況の中、平成20年9月に就任された高野町長は、都市部との交流拠点や住民の生き甲斐づくりの場として「道の駅」の設置に強い思いを持たれており、就任

道の駅全景



レストラン九寸角桧柱

集荷風景



オープン当初から、想定をはるかに超えるお客様にお越しいただき、特に5月の連休には、連日1万人から1万5千人のお客様にお越しいただきました。物産館では、身動きできないほどの混雑で入場制限を行い、レストランでは60の席に200人以上の方にきて来店いただき

道の駅オープン（交流の場）

直後から取り組みを始め、各方面の理解をいただき、町の一大プロジェクトがスタートしました。そして本年4月に完成した道の駅は、約5,700平方メートルの敷地に、神社仏閣などに用いられる、九寸角の町産松柱を贅沢に使用して、物産館やレストランを建築するなど、「林業の町」ならではの木造建築となっております。それに加えて、今後発生が予想される「南海トラフ大地震」などに備え、災害時の活動拠点とするため防災センターも整備し、その他パン工房やファーストフードコーナー、インフォメーションなどを備えています。

き、長時間お待たせすることとなり、またパン工房では製造が間に合わず商品陳列が出来ないなど、お客様には大変なご迷惑をおかけしましたが、有り難いことに7月末までの3か月余りの間に、50万人を超える来駅者をお迎えすることができました。

物産館では艶やかな産直の野菜、米、茶、漬物、木工品が人気です。農家レストランでは地元食材を使ったバイキング形式のランチが好評です。季節野菜をトッピングしたピザやよもぎうどん、トマトソフトなどファーストフードも充実しています。また、インフォメーションでは交通情報や観光情報、町のイベント情報などを案内させていただいております。

道の駅オープン（生き甲斐づくり）

また、皆様のご協力により成り立っている農産物の販売ですが、道の駅では出荷手段の無い高齢者を対象に集荷事業を行っています。これは、直売所出荷会員さん220人の内73人の高齢農家の方を対象に町内3ルートに集荷車を走らせる事業です。農業が好きで自家消費以上の農産物を育てても、出荷量とか出荷手段の関係で今まで換金出来なかったものが、チョットしただけでお小遣いになるとあって、「出荷せないか



人気のバイキング料理



直売所の8月風景

哲学のようなテーマ再び

んけ、病院に行きよる暇ないんよ」と冗談も冴えわたり明るくなりました。

最後に「何を求めて人は久万高原に来るのか？」というテーマに再び向き合ってみようと思います。一般論として考えると、①「都市部になれないもの」、②「都市部にもあるけどそこが本場ならではのものの」、③「そこにしかないもの」④これらが創り出すイマジネーションの確認、といったところだと思ふのですが、これを久万高原に置き換えた途端に迷路に入ってしまうのです。

オープン以来、道の駅には本当に大勢の方に訪れていただき、改めてこの町の力を感じています。では「町の力」とは何でしょうか。町の力とは、このようなイマジネーションから来る期待を、裏切らないということなのでしょう。